

## 南相馬の今を見て 福島県被災地視察研修に参加



### 参加者全員で黙祷

品川区高齢者クラブ連合会荏原南地区会に於いて役員幹部研修会が6月5日・6日に福島県白河と南相馬にて行われた。

初日訪れたのは、東日本大震災で被害のあった白河城。石垣が上部より横に約百メートル以上全体が崩落の現場を視察。白河城前の城山公園内の一角に1メートル四方程の石垣が何百も保管され、皆それぞれ地震の恐ろしさを感じた。

翌日は津波・原発の被害が有った南相馬へ。途中添乗員が南相馬市防災課と携帯電話にて、行き先の被災地の放射線量を確認しながら大震災でゴースタウン化した町を通り津波被災地へ。海岸線より8キロ地点の『津波の高さ十数メートル、町全体が土台すら無く全ての住民は死去された地区』へ。バスが一台ようやく入れる所まで行った。東京都民としては初めてこの地に入ったとのこと。バスの車中より、防護服を着た市の職員が重機を使用し、瓦礫の処理作業を行っているのを見た。大きな黒い袋(放射線量の高い瓦礫)と黄色の小袋(身元不明の人骨と瓦礫)との分別を行っていた。

作業場をUターンし、一般道へ戻る際両脇には遠くの岸壁に有ったコンクリートのテトラポットや船、自動車、電柱が散乱、一般道にて全員バスを降り黙祷を捧げた。皆涙が込み上げて来た。

帰路は相馬市役所・相馬警察署近くの仮設住宅前にある道の駅で小さな復興応援の為、御土産を買い小休止。茶色(一人生活者)と青色(家族編成による)の建物が被災された方の住宅であり、訪問見回りは朝7時と夜9時に行っているとのこと、現在でも孤独死が有るようだ。

何時起こるか判らない災害に対して、私達個人個人が防災に最大限の関心をもつ必要があると思う。

西中延3丁目 防災アドバイザー 宇野澤 祐司  
荒巻 保

## 荏原第四地区 総合防災訓練

日時 11月3日(日)  
午前9時～正午  
場所 源氏前小学校校庭  
主催 品川区防災協議会  
荏原第四地区協議会  
地域のみなさんのご参加をお待ちしております!



## 昔、此の地域の町

此の辺一体の地名が、荏原郡、何々村であった頃、中延と言う地名はその頃からあったようです。村の氏神様の八幡様も、最初は、中延八幡宮と呼んでいたのです。現在の中延五丁目町会の本通りから現在の旗の台三丁目、八幡神社の前の通りを中延四丁目を右に見て西中三丁目のまっすぐの通りを中通りと呼び、昔、栄えた町だと言っています。

また、町会名も中通り町会と言う名であったようです。その証拠として我が町会である旗の台三丁目町会の前身は、旧東京市荏原区中通り町会の一部と、旧荏原区の清水町会の一部が統合されて西中延三丁目となりましたが、昭和22年3月15日をもって、旧品川地区と、旧荏原地区との統合により、我町名は、東京都品川区西中延三丁目町会となったのですが、また、昭和40年9月1日に町名が新しく変更されて、品川区旗の台三丁目町会となりました。

昔、我町会を流れる川、立会川と言う川が、昭和43年頃の工事により立会川公園となってきれいに变化しました。流れて居た頃には、ふたつの橋が掛けられておりまして、旗の台駅から降りて三丁目に入り、一つ目の橋の名前が清水橋と呼んで居ました。名前が元、清水町のなごりかと思われます。もう一つの橋は八幡山に近いので八幡下橋(ハチマンシタバシ)と呼んで居たのです。品川区の史料にも載っていると思います。

我町三丁目は地形が細長く、町内の上地(カミチ)を指す地には、も

う少して千年の歴史をも近い八幡神社様と法蓮寺様が、どっしりとかまえて町会全体を見守ってくれて居ますから、とても安心度の高い居住地が保たれて居ると思うのです。我が町には開校80数年の文教大学学園に中学、高校、付属幼稚園とが有って、今後4年間の建替リニューアル工事に入って居て、工事完了のあかつきには町内を明るく照らして下さるような気がします。

(昔話一部の終りです) 旗の台三丁目町会 角田 萬吉

## 一追伸- 旗の台三丁目 高橋さん サーフィン大会優勝

我が旗の台三丁目町会の高橋昂大さんが7月27日新島で行われたサーフィン大会(2013東京都知事杯SEVEN CROSS TOKYO SURF MASTERS)のオープンクラスで優勝し、8月21日から高知県の東洋町で行われた第48回全日本サーフィン選手権大会に出場しました。



上 波に乗る昂大 右 優勝杯を掲げる高橋さん